夕刊 常磐毎日

発行所 平市田町75 常磐毎日新聞社 電話1210
編集兼印刷発行人 吉田甫

購読見本
只今本紙拡張中御愛読を御願申上げます
申込先 常磐毎日新聞社 小名浜支局 電四八番へ
★ 円 810 円 810 1ヶ月 1 料 購読料 郵送 購読料

いよいよ明日投票
小名浜町長及び町議補選

明日に迫つた小名浜町長選挙並びに町議補欠選挙は、全く文字通り最後の追込戦に突入し各候補共しのぎを削つてのツバぜり合いを演じて激戦を展開、町を挙げて〝選挙一色〟にぬりつぶして多大の興味と関心を集めているが、特に一騎打ちとなつた町長選は、近い将来市制執行の明るい見通しもあつて　さしずめ初代市長選挙にも等しい重大な一戦でもあるので、その〝烈さは従来にみられなかつた様相を呈している。所謂水い間特権階級の独占町政として多くの批判を浴びている小名浜町の町政も、常磐地区総合開発による大商港としての明るい建設の見通しから、時潮の波に乗つて革新の声が湧きあがり「封建的な同町町政を、大衆の手に奪還すべきである」として、庶民の声の支持を得て立候補した立花秀吉氏と、伝統の特権政治を護らんとして立候補した志賀要平氏との争いであるだけに双方死力をつくしての激戦を繰りひろげ選挙通ですら「全く票を読めない」と言つているように、正に人気伯仲「五分五分だ」の一語で、一票一票が本当に重大な当落のカギとなる程接近した戦を展開、最後の最後まで予断を許さないものの如くである伝えられているが、一部選挙通の見方によれば「五分五分だ」と言うが、立花派はやゝ苦戦をまぬがれないようだと見ている声もあり全く最後まで予断を許せないもののようである（写真上は立花候補の街頭演説、下は志賀候補の街頭演説風景）

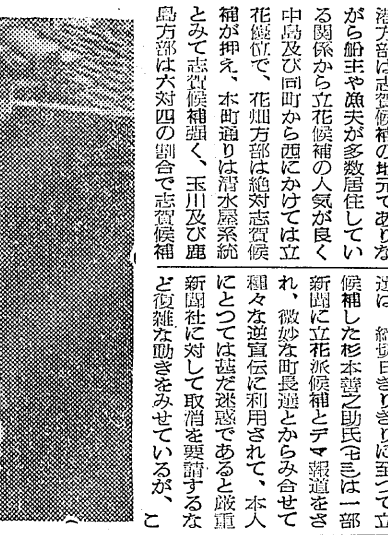
志のなかには、江尻三醫郎氏や長瀬農協組合長など推すべき人はいくらでもある、その人達が出馬を断念して立花氏を応援しているのも、同氏が二十有余年の永い間愛着を感じていた議員を辞職し、背水の陣をひいてまで立候補した悲壮な決意に感激すると共に、老身をひつさげて最後の御奉公をしたいという立花候補の心情に胸を打たれたからだ」と杉本候補との関係について語つた

志賀派や、優位か
最後迄予断許さぬ激戦

十一日の告示以来わずか十日間の短期間の運動であるので、運動も未徹底のままゴールインという急がしさであり、一万六千有余の有権者にとつては人物批判も満足に認識し得ないまゝ投票に追込まれると言う感じである、一万六千票のうち一千二百六十票が旧鹿島の票であり、且下のところでは、古港方部は志賀候補の地元でありながら船主や漁夫が多数居住している関係から立花候補の人気が良く中島及び同町から西にかけては立花優位で、花畑方部は絶対志賀候補が押え、本町通りは滑水屋系統とみて志賀候補強く、玉川及び鹿島方部は六対四の割合で志賀候補が優位と言われており、それに改進党、社会党、自由労組、立憲襄成会、水素労組、漁協組などが入り乱れて全く五分五分の伯仲戦となつている

立花派ぜデマ否定
杉本町議候補は無関係

一万無競争の夢を破られた町議補選は、締切日ぎりぎりに至つて立候補した杉本喜之助氏（きは一部新聞に立花派候補とデマ報道をされ、微妙な町長選とからみ合せて種々な逆宣伝に利用されて、本人にとつては迷惑であると厳重新聞社に対して取消を要請するなど複雑な動きをみせているが、これに関し立花派選挙事務所では次のように語つている「杉本候補が立花系から立候補したと一部新聞が報道しているのはデタラメも甚だしい、あの記事のため我々陣営が何等か作為があつて出馬させたように誤解されるのは迷惑千万である、今更杉本氏を出馬させる位なら、われわれの陣営と言うか同



比佐政種氏に厳重抗議
事実無根と立花派に陳謝

十七日志賀派運動員比佐政種氏が街頭演説論旨中に「立花候補は、過般の大原殺人事件に関し、仲介の労をとつた際、金銭の謝礼をうけた、また当選後は旧鹿島三部落を湯本町に移譲すると言う協定を履行するとの約束で、湯本町から巨額の謝礼をもらつた」と立花候補をヒボウする如き言辞を公表したのに対し、立花派運動員、佐川兵吾、稲葉融の両氏は十八日零時半頃志賀候補事務所に当の比佐氏を訪問比佐氏に対し、厳重抗議を申入れ事実の有無をただしたところ、比佐氏は「自分はそんな論旨を演説した覚えはない、事実無根であるから陳情する」と謝罪したが、比佐氏は更に語をついで「勝つためには手段を選ばずだよ」と放言、良識ある有権者の非難のまどとなつているが

これに対し立花派では、「事実無根のデマ演説をして選挙を妨害したり、名誉を傷けたりした事実も証人もあるが、先方が謝罪したので問題化しないで水に流すつもりだ、」と語つていた

教組石城支部委員会

教組石城支部の第七回支部委員会は二十三、二十七の両日午前十時半から支部で開き、教育斗争推進、教育会館再建問題人事闘争推進について協議する

落成記念行事
好間分校（内郷）

内郷高校好間分校生徒会主催の新校舎落成記念各種作品展示会、弁論大会、卓球大会は廿三、二十四二十五の三日間同校で行う

街から拾つた選挙ばなし

◆元衆議院議員の肩書をもつ立憲養成会の例の「斎藤天皇」こと斎藤晃先生が、某派の運動で街頭演説に立つて、連日先生一流の演説をブツているが、論旨もさることながら、元代議士さまとは思われないヤヒな言辞の連発に、傍らの聴衆の中から「あんでは票が散つてしまうべえ……」

◆〝暖冬異変〟のせいか斎藤天皇さまもポカポカと頭に来たのかどうか、「ボスとはドロボウである、……だからボス候補は選挙するな……」

◆町長候補には二人しか立候補していない、かたや清水屋一家をバックとした志賀候補、かたや庶民階級の声を背負つて立つた立花候補である、ハテどちらを応援しているのだろうと聴衆は頭をひねつていた

◆街頭演説に婦人弁士が立つと思わず足をとめるのが人情か、主人の当落は一家一族だけのためばかりではない、支持して下さる有権者は勿論、大小名浜町民のためだとあつて、平常でさい病弱がちの老軀をひつさげて連日街頭に立つて血の叫びを訴えている立花候補夫人ワカ子さんの熱意には理屈を抜きにして感激させられる

◆晃兼ねた御代義勝さんの愛娘、御代潤江さんは「体を悪くしてはいけないと」この代役を買つて出で日夜幾十回もの街頭演説に、多大な感銘を与えているが、ワカ子夫人は「代理では皆さんに済みません」と、御両人共に拠えて涙ぐましい苦戦を続けている、町長選挙に咲いた愛情うるわしい紅二点風景

鈴木（寅）市議熱弁
親友立花候補応援に奮斗

平市議鈴木寅次郎翁は、四十年来の親友である小名浜町長候補立花秀吉氏のために、老軀をひつさげて選挙事務所にかけつけ、十八日以来泊りがけで、街頭に会場に応援の熱弁を振つているがこの変らぬ友情に同事務所は意気益々あがり、最後の追込戦に血の出るような努力を続けている（写真は鈴木市議）

小名浜方部合併促進打合会

小名浜、泉、渡辺、江名四ケ町村の合併促進打合会は十九日午前十時から小名浜町役場に石城地方事務所労資次長及び五ケ町村の促進委員が出席して開催した結果合併促進会を自治運営促進協議会と改め、会長に長瀬小名浜町議長、副会長に渡辺、泉、江名の各町村議長を選任、二十四日に来郡する県の町村合併審議会委員の出席を待つて具体的な促進案を再検討することになつた渡辺村では合併を全面的に支持合併の具体案が出来れば何時でも村民投票によつて最終結論を出す態勢を進めているが泉町では時期尚早と乗気うすく江名町でも二十三日の定例町議会に果して議題となるか、ならぬかもわからないと言う極めて消極的な態度を示し、四月市制をめざす前途に更に多難な様相を見せている

午前十時から石城地方事務所で開き、二十九年度構給計画について審議する

故妻谷口朝子儀

葬送の際は御繁忙中にも拘らず遠路態々御会葬下され且つ御鄭重なる御香奠を賜り御芳志の程厚く御礼申げます
早速拝趨の上御礼申べきところ略儀乍紙上を以て御厚礼申上げます

昭和二十九年一月二十日
平市若町目四九番地
施主 谷口孝雄
谷口益雄
親戚総代 山田眷爾

中華料理 不二屋 出前迅速 電八八六 一七五〇

看護婦 家政婦の 御用命は…… 電三〇七番へ 労働大臣認可 平看護婦家政婦紹介所 尚派出多忙会員募集

慢自味 江戸前 割烹 小料理 ◇仕出し承ります◇ 和洋食 特製支那そば ◇出前迅速◇ 求料理見習 16才…20才位 やまか奈 才稲小路電395

ヤマフル 塩屋 電話十番 味は一番 醤油 味噌 醸造 天然

市街緑化運動開始
名実共に東北一の都市に

平市緑化推進委員会では四月から三十万円を目標に緑の羽根募金を実施、更に二十万円程度を一般市民から協力を求めて、大町、白銀町等の街路樹や新川土堤のつゞじ柳の整備、城山地内の緑化などを行う計画を進めているが

更に今年は原種農場とタイアップして三十米のグリーンベルトに夏、秋、冬など四季にちなんだ松葉牡丹、秋ランサス、ヤリケートウ、雲ぼたんなど植樹名実共に東北一の緑化都市を建設するという

▼学校大賞沢渡小学校▼民間大賞田人村緑川万寿吉、磐城造林KK赤津庄兵衛

冷害保険金押え
カ酷だと四倉の農民騒ぐ

四倉町農業共済組合では去る十一十二、十三の三日間冷害水稲保険金二百二十九万七百八十二円を二百三十九名の農民に支払をしたがこれら支払の当日は役場税務吏員らが、出張して税金並に出資証券（農協株券一口千円）などをその場において取られたと一部農民らが騒ぎ出し成行が注目されている

農民の某氏談

「共済保険金はどんな物であるか……にも、かゝわらず税金又株券などを納めろと言つて取る事は、どうかと思う、中には手元に金がなく肥料、農機具を買うことの出来ない人もある、明日にも食べる米がない人もありこのようなことで余りにも不当なやり方であろう」

役場税務吏員談

「共済保険金は、一ケ月前から税金の納めてない、農家に対しては個別訪問して共済保険金が貰らつたらそれから税金を納めるとの誓認を得て納めて貰らつたもので、農業協同組合に出張したのは事務の能率を計る為に農協に出張したのであつて強制的に金を取り上げたのではないと語つている

永戸みの輪、沢渡三阪

救農事業の
一月分割当決る

救農失対事業の一月分事業割当は次の通り決まつた　なお労働日数は一人二十五日

▼十五名植田　山田、餅、上遠野、川部、田人、四倉、小川▼二十名入遠野、夏井、高久、豊間、草野、大浦、川前▼三十名

常磐交通新年会

常磐交通KKでは、廿三日午後三時から谷口楼に関係者らを招待して新年宴会を催す

植林コンクール
入賞伝達式

学校植林ぶ育コンクール並に民有林間伐コンクールに入賞した表彰伝達式は二十日午前十時から石城地方事務所で開く、入賞は次の通

地教委総会
役員改選その他

石城地教委総会は二十二日午後一時三十分から平第一小校作法室で開催、年度末事務の申合せの件、二十九年度予算などについて協議引続き役員の改選を行う

県営住宅の
入居者が決定

市内七軒町に新築された県営住宅十戸の入居者は十九日平土木監督所で次の通り決定した

松本公平（長橋）井幡勇（同）又川一美（同）小池豊次（三丁目）菅野栄曾（六人町）山本清次郎（下荒川）逢田善一（八幡小路）国井正武（杉平）橋本貞義（駒宮町）佐藤房治（南町）

総合開発初總會
欠員中の会長を決定する

常磐地方総合開発期成同盟会は二十八、九日ころ今年初の総会を開催、欠員中の会長及び旧ろ中に決定に至らなかつた道路、港湾、水利、産業、鉄道など五部門に亘る専門委員を選任して愈々開発の具体化に乗り出すことになつているが

会長には知事選挙のため辞退した大竹知事が新たに就任するものと見られている

なお同会では政府予算の削減から国庫支出金や補助金に依存していたのでは開発の促進を期し得たいとし、広く東京、関西の財界に呼びかけ独自の民間資本を導入、資本金十億円程度の開発会社を創立して

強力に開発を推進する計画を進めており、今年度の動きは大いに期待されている

郡下事業所の
従業員調査

平労基署では平市及び郡下の従業員調査を行つていたがこのほどまとまつた　調べによると事業場数は昨年の二千七百四十六事業場を三割も増え三千七百七十事業場だが、これに反し事業員は昨年の五万四千二百名をわずか五%上廻る五万六千四百四十八名で

これは炭砿を中心とした中心事業場の企業整備が着々進められているものとみられる、男女別にみると男は四万六千六百三十一名（昨年四四　六七六名）女は九千八百十七名（九、五三六名）で産業別にみると炭砿関係がトツプで二万三千六百九十四名（九九事業場）

十人に一人の率
市営住宅の入居者抽選

平市七軒町に建設中の市営住宅は三月末までに九坪、十一坪建など併せて八十二戸完成することになつているがこのうち今月末日までに完成する三十戸分の第一次入居者選定は二十一日前後に住宅選考委員会を開催して有資格者を選定更に抽選によつて入居者を決定する

現在の入居申込件数は五百五十件に達しているが、収入その他の面で二百名程度の失格者が出るのではないかと見られているので、第一次の入居率は大体十人に一人程度の割になるなお残りの五十三戸分の入居は住宅の完成都度行われる予定

次いで土建関係の六千八百二十八名（三六〇）運送関係三千十五名（八九）水産加工三千八百九十八名（二二）化学工業二千七百五十二名（八）商店の二千百十四名（四七二）となつており変つたのでは勿来町のガス採掘八名（一）がある

常磐労組
初の全員協議会

常磐炭砿労組では、二十日午前九時から砿業所で　会社側との今年初の全員協議会を開らき、昨年から持越しの「十月以降新賃金問題」について話合つた

組合側は昨年の現行賃金の二割値上げを申入れた

内郷町から
フン尿問題の補助金を申請

内郷町では廿日県当局並びに県会議長対し、糞尿処理清掃ポンプ購入に関し補助金交付方を申請した

自治確立推進
審議会を開催

石城地方自治確立推進協議会は二十三日午前十時から地方事務所会議室に県町村合併促進協議会常任委員大平正次県議ら三氏を迎えて開催、更にその具体的促進策等について協議する

なお前会協議会結成に至らなかつた平地区の第二回懇談会は二十六日午前十時から地方事務所会議室で開催、平市を中心とした大同合併促進について再検討を加える

親恋しさに
少年が脱走

内郷町大字宮少年某（一四）は十八日夜肉親恋しさの余り平児童相談所を脱走し綴駅前をはい廻中内郷地区署員に保護され翌日相談所に送還された

居住權は深刻だ
橋下のバタ屋刃傷サタ

住居問題はどこの世界でも深刻だがこゝ平市平神橋下居住のバタ屋さんの世界はそれ以上らしく二十日朝居住権問題で遂に刃傷事件を起した

二十日午前十時ころ平市鎌田町平神橋居住バタ屋渡辺正治（五）と同ヤマ郡生れ同居住バタ屋花見巡吉さん（五四）は隣同志だが居住権問題から口論となり渡辺はそばにあつた壊れたイスを振上げイスの角で花見さんの頭を数回にわたり殴打全治一ケ月半の重傷を負つた花見は市内竹林病院に担込まれ手当を受けている

大昭炭礦スト突入
給料遅配を不満として

重傷を負せ傷害現行犯で平市署に逮捕された

十二月分給料四百三十四名分、五百十七万円を給料日の十五日に会社側は経営不振を理由に支払はないもので、来月にも遅払になる可能性が強くなつたので

ストライキを強行することになつたもの

飲食関係説明会

遊興飲食関係説明会は三十一日午後一時から石城地方事務所で開く

平地区署の
寒けい古納会

平地区署寒稽古納会は十九日午後一時から武徳殿で行つた、入賞は次の通り

剣道①安田定夫②鈴木初雄③平間襲治

柔道①村上貞祐②郡正③浅野村男

菓子泥検挙

内郷町綴字秋山センベイ業商吉田次男（四五）は十六日湯本町宝海センベイ製造業大友勝治さん（三五）方からセンベイ五貫匁、時価四千八百円相当をあずかり行商に出たが売上げ金を横領して遊興費につかい込みその支払に窮して十九日午後四時ころ平市紺屋町二四菓子問屋西脇健吉さん（三八）方の店先きから一斗缶積めオコシ四貫匁、時価三千六百円相当を自転車に積んで逃げようとしたところを平市署員に窃盗現行犯で逮捕された

なお同人は菓子問屋荒しの余罪相当あるものと見られる

覚セイ剤違反

湯本地区署では湯本町大字上川七無職吉田テルさん（三三）方でネオアゴチンの密売をやつているとの特報を得たので十九日午前七時ころ同宅を急襲ネオアゴ五〇〇入り千百本を押収その帰途同字無職梁太永（四五）方も急襲注射器二本を押収すると共に両名を覚せい剤違反現行犯で検挙した

郷土力士星取表

十日目

	関脇		前頭	
●●○●●●●●●●	○	時津山（平）	○○	信夫山（保原）
○○●○●○●○○				
幕下			常錦（宮本）	
●●●や○や○や	や		や	
序二段				
や○や○●やや●や		古川（日橋）		

出生死亡届出

出生＝平市鎌田町五〇広田徳江長男孝徳、平市錦岡字田中山十一桜井清一二女由美江、平市仲間町五四相川文雄長女久仁子、平市古鍛治町八八生矢目新吾二女圭子、平市二四猪狩幸三長女多以子

死亡＝平市才槌小路二五神官大形茂次（六五）

ラジオは古山

天気予報

明日＝北のち北西の風一時やや強くはれたり曇つたりときどきしぐれる

海上＝始めおだやかだが風波が高まる

平医師会第三次臨時総会開催のお知らせ

標記の件左記により開催致しますから万障お繰合せ御出席下さい。なお当日出席不能の方は委任状を御提出下さい

記

一、日時　昭和二十九年一月二十四日（午后三時より）
一、場所　平准看護婦養成所内
一、議案　一、県医師会代表員改選の件　二、其他重要案件
一、報告　県医師会代議員、郡市区医師会長並に県医師会役員の協議会の報告

昭和二十九年一月二十日

社団法人　平医師会々長　鈴木正男

平医師会々員殿

新春の装いは

☆紳士服地☆
☆婦人服地☆

新柄各種取揃えました
御注文仕立は迅速にいたします

専の店

服地専門店
マルエ
銀座　TEL 265

社員急募

業務拡張たのめ
契約部社員
男子　女子　数名
年令三十才以上高卒　特に外務経歴者を希望
履歴書本人持参のこと
固定給面接の上決定

日本建物株式会社
平営業所
平市大町三丁目五八〇
管内出張所　湯本天王崎二六　電呼二五一
四倉町本町　電二五七